

津ライスニュース 平成30年産 第2報

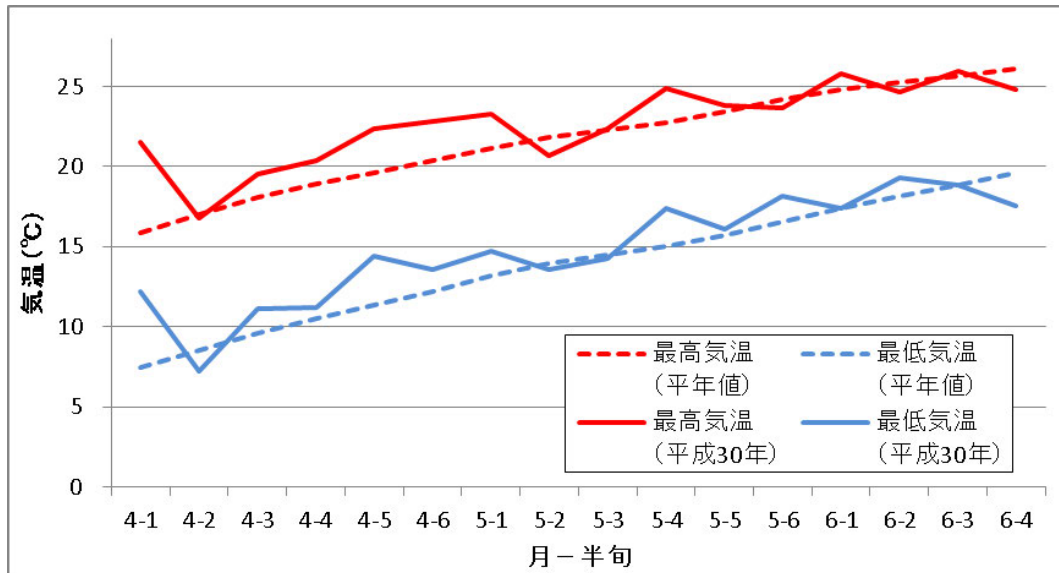
平成30年6月18日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

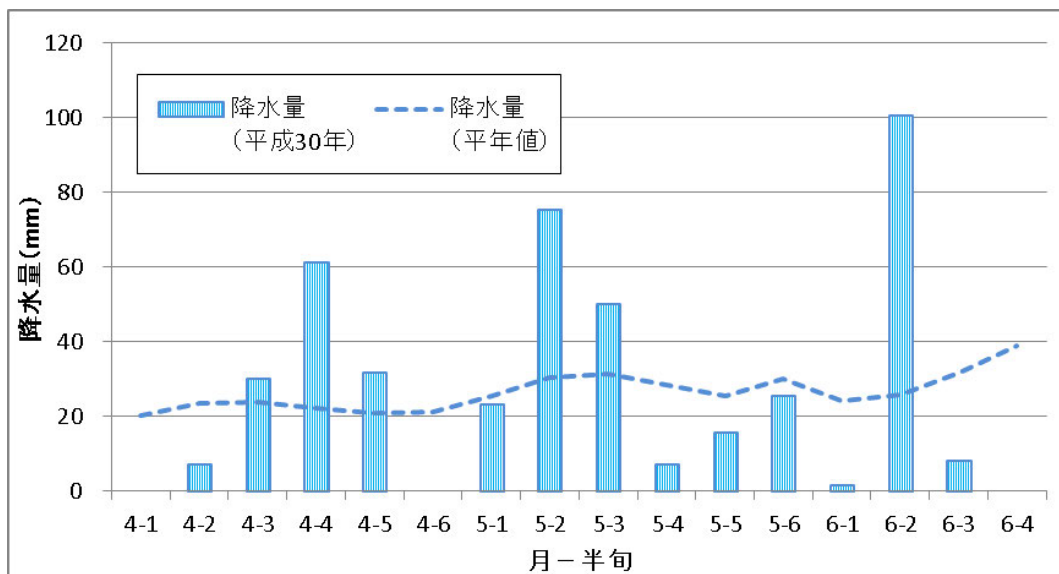
<気温>

4月上旬、5月上旬で低温に見舞われましたが、気温は高めに推移しています。



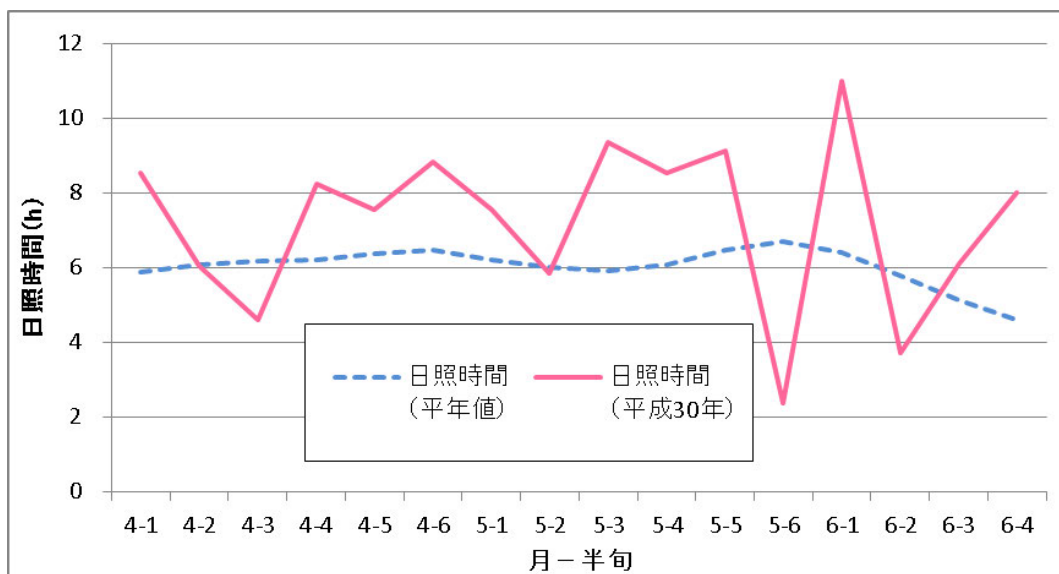
<降水量>

4月中旬、5月上旬、6月上旬にまとまった雨が降り、例年より降水量はやや多くなっています。



<日照時間>

5月下旬に曇天が続き日照時間が短くなった期間がありますが、4月中旬以降晴れた日が多く、例年より日照時間は多く推移しています。



生育の概況

本年は育苗期間中の寒暖差が大きく、一部でムレ苗やヤケ等の症状、生育ムラが散見されましたが、気温の上昇・日照時間の充実によって回復しています。農業研究所(嬉野)の作況田での生育状況では草丈・茎数などいずれも平年より上回る数値を示しました。現時点では、特に目立った病害虫の発生は確認されていません。

水稻生育基準田調査結果【平成30年6月15日時点】

場所	移植月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	茎数 本/株	葉齢 L	葉色SPAD
殿村	4月16日	59.3	530.3	35.0	10.4	34.2
白山	4月30日	49.1	363.5	22.9	9.4	40.7
安濃	5月10日	44.9	235.5	16.6	8.1	38.8

(参考)水稻生育基準田調査結果

場所	移植月日	草丈 cm	茎数 本/m ²	茎数 本/株	葉齢 L	葉色SPAD
殿村	4月21日	59.0	392.3	31.9	8.1	39.1
安濃	4月24日	42.8	321.4	21.0	7.6	35.3

※殿村のデータは H24、H27、H28、H29 の平均値

安濃のデータは H28、H29 の平均値

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病発生に適温(25~28℃)となる時期を迎えています。今後、雨の日が続く、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による発生予測において、津管内では6/9、6/11に好適条件が確認されていますのでほ場を見回り、いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。感染源(補植用の置き苗など)を減らすことも対策の一つです。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)

【http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/89860000001_00001.htm】

<斑点米カメムシ類等>

今後、畦畔等、ほ場周辺での発生増加に注意しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう。(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)

今後の栽培管理

<中干し>

- ・中干し開始は移植後35日前後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。
- ・中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分けつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。平成29年産米では、栄養成長期間の好天によって、生育が旺盛になり、茎数が増加し籾数が増えたことに加え、生殖成長期間の曇天による籾の充実不足が重なり、白未熟粒が多発したと推察されます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。
- ・6月に入ったら、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとう水管理が楽になります。
- ・***茎数が多い場合** →中干しを早い目に、やや強く行います。
ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。
- ・***茎数が少ない場合** →中干しを遅い目に、弱く行います。

○中干し後の水管理

- ・中干し後は根が弱っています。そのため、こまめな間断かん水を行い、土壌に空気を送り、根の健全化に努めましょう(長期間水を溜めておくと、酸素が不足する

ことによって、根の老化や根腐れによる下葉の枯れあがりが進むことが懸念されます)。

- ・幼穂形成期～出穂・登熟期間は水が最も必要な時期になります。水を切らさないような間断かん水を心掛けてください。

<除草>

除草剤の効果不足によってヒエや広葉雑草の発生がある圃場では、早めに後期剤を散布しましょう(但し、成分回数や使用時期＝特に収穫前日数に注意してください)。

<穂肥>

穂肥は適期に適量を施用しましょう。

※全量基肥肥料(一発基肥)施用田は原則穂肥を施用しない。

ただし、生育前半が高温で推移し肥効切れが懸念される場合は出穂期に窒素成分で1kg/10a程度の追肥が効果的です(白未熟対策にもなります)。

施肥過多は食味低下の要因になるとともに、倒伏・穂いもちの発生を助長します。

○穂肥の施用効果が期待できる稲の姿とは

- ・葉色が薄くて(葉色 4.5 以下)、葉が直立している。(株元スッキリ)
- ・地際の節が短く(第 4 節間が 3cm程度)、茎が太い。
- ・過剰な分げつが少なく、草丈が 70cmを超えないこと。
- ・病害(特にいもち病、紋枯病)の発生が少ないこと。

○施用量の判断

- *分げつが多く生育が過剰な稲 → 時期を遅らせる。量を減らす。やらない。
- *分げつが少なく小出来な稲 → 時期を早める。

○穂肥の施用時期

◇一回目の穂肥は**籾の退化防止、籾殻を大きくする効果が期待**できます。

- ・コシヒカリ 出穂 18～15 日前(幼穂長 1.0～1.5cm)
- ・その他品種 出穂 22～20 日前(幼穂長 0.5cm)

※穂肥用緩効性肥料を使用する場合は時期を 2～3 日早め、1 回のみの施用とする。

◇二回目の穂肥は**玄米を大きくする。いわゆる「実肥」的な効果が期待**できます。

- ・一回目の穂肥施用 7～10 日後

(参考)

○水稻生育予測

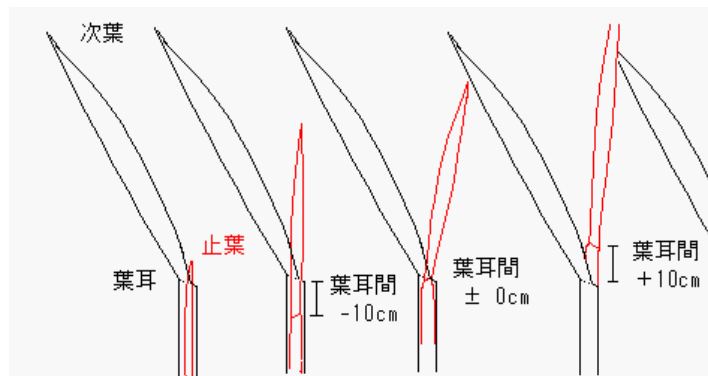
【平成30年6月18日現在】

品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	6月28日	7月19日	(0.5日早い)
	5月15日	7月8日	7月30日	(0.2日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月5日	7月30日	(1.3日早い)
	5月30日	7月18日	8月18日	(0.9日遅い)
三重23号	4月25日	6月22日	7月14日	(0.5日早い)
	5月10日	7月1日	7月23日	(0.0日早い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による生育予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10年の平均気温)を使用しています。

☆葉耳間長(止葉の抽出程度)と出穂前日数の関係



出穂 15 日前	出穂 10 日前	出穂 5 日前
葉耳間長 -10cm	± 0cm	+10cm

コシヒカリの穂肥施用のめやす (資材は例)

葉色(葉色板)		3.5～4.0	4.0～4.5	4.5 以上
草丈		65 cm	70 cm	75 cm以上
NK 化成4号 (14-0-14)	一回目	20	15	やらない
	二回目	10	10	10
IB045 (20-4-5)	一回目	20	10	やらない